

前 奏 黙想	祈 禱
招 詞 エゼキエル書 36:26	讃 美 歌 500 みたまなるきよきかみ
讃 美 歌 66 聖なる、聖なる、聖なるかな	献 金
祈 禱	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
信仰告白 使徒信条 566	黙 禱
聖 書 民数記 11:16~17	主の祈り 564
使徒言行録 1:3~8	頌 栄 543 主イエスのめぐみよ
讃 美 歌 168 イエスキみの御名に	祝 禱
説 教 『聖霊を分かち合う』	後 奏

「ザ・家父長」とも思えるモーセ。融通利かない頑固ジジイのようだが、主なる神に泣き言や文句を平気で訴える(民数 11:15)、率直な指導者のようにも見える。不満たらたら民(11:10)の責任など負いかねる(11:11)、とモーセが訴えると、主なる神は 70 人の補佐役を与えることにした(11:16)。

「わたしは～あなたに授けてある霊の一部を取って、彼らに授ける。そうすれば、彼らは民の重荷をあなたと共に負うことができるようになり、あなたはひとりで負うことはなくなる(11:17)」。

復活したイエスは使徒たちに告げた。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる(使徒 1:8)」。使徒らは復活のイエスに出会い、40 日間にわたって教えを学んでいるが(1:3)、まだ聖霊は受けていない。だから早とちりして「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか(1:6)」と尋ねた。聖霊による洗礼(1:5)と共に国が再建されるか、と期待した。

でもまあ、使徒たちがそう考えたことは無理なだろう。民が渴望していた「神の国(1:3)」の到来は、神の御心が行き渡った独立した宗教国家なのだから。とはいえ一方でこうも言える。使徒たちは生前のイエスの言葉やふるまいを目の当たりにし、その教えに身を献げて従い、また復活したイエスから 40 日間も学んでいた。であるのに、なぜイスラエルという国家再建の枠にこだわっているのか。

十字架で挫折し絶望し、復活に遭って再び立ち上がった使徒たち。彼らの信仰は確かに深まっていただろう。しかし信仰が充実してなおも、内に「不信仰」を抱える。不信仰とは、信じないことではない、十字架や復活への無理解のことではない。不信仰という信仰は、洗礼を受け、キリストの弟子として現実を生きる者が、否応なく抱える「信仰の歪み」、「信仰の迷い」、「信仰の個性」なのだ。

マタイ福音書での復活したイエスは、女たちにこう命じた。「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる(マタイ 28:10)」。

だが使徒言行録ではこう命じている。「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい(使徒 1:4)」。

ガリラヤでも、エルサレムでもいい、ただ「待つ」のだ。自分の場所で、自分の姿で、自分の生き方で、「父の約束されたもの」を淡々と待てばいい。「国を建て直すのはこの時ですか(1:6)」と気がせいてはならない。人間の約束は当てにならないが、神の約束は必ず果たされる。

敬虔なキリスト者であっても、人間は不信仰を抱えている。だが私たちの疑いや迷い、錯誤や虚無も神の愛に捉えられている。だからエルサレムで待つ(1:4)、八ヶ岳教会で待つ。このローカルな私たちの場で待っていると、必ずや「聖霊が降り、力を受ける(1:8)」だろう。「そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる(1:8)」。

聖霊によって深められると、ローカルが世界の地の果てに至る。キリストの証人になるとは、私たちに授けられる聖霊を分かち合うこと。この地で私たちは、世界のひとと聖霊を分かち合う(民数 11:17)。

世界とは広さではない 世界の真相は深さにある 今や 情報網や交通路は世界全体を覆っている
だが隣人が増えただろうか キリストによって私の聖霊が分かち合われることで 隣人は生まれる
本日礼拝後「総会で問われた課題」を考える集まりの第 1 回。5/19(月)10:00~11:30 八ヶ岳教会の
甲府聖研(YMCA)。5/21(水)1:00~3:00 教会カフェ(30 分聖研あり)。牧師の動き:5:20 教誨師会総会。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。